2022年度（令和4年度） 学校関係者評価

日本医科大学看護専門学校

2022年度（令和4年度） 学校関係者評価

1. 目的

当校における教育活動及び学校運営の状況について、自己点検報告書「学校運営評価」の結果から評価し、学校運営の継続的な改善を図るための助言をする。

2. 実施方法

各委員に対して自己点検報告書「学校運営評価」を郵送し、当該年度の取り組み及び課題の達成度について、以下の評価尺度に基づき、点数評価とコメントの記入を依頼した。委員の意見を纏め、また、委員から質問等があった場合は、学校側の解釈・回答を含めて記載したうえで、これを各委員に送付して点検を受けた。

【評価尺度】　「カテゴリーごとの取り組みは優れている／前年度の課題が解決された」
3：当てはまる　2：やや当てはまる　1：当てはまらない

3. 2022年度　総評

2022年度は新型コロナウイルスワクチン接種が進んだが、国内では感染者数の増減の波が繰り返し生じていたため、当校では他者との距離をとった対面授業を継続した。臨地実習については、3回のワクチン接種終了者は病院における臨地実習が認められるようになったため、年度の後半は、一定の制限はあったものの臨地実習が再開できた。また高齢者施設や訪問看護ステーションなどでは、各施設と相談しながら工夫し臨地実習を行った。以上より、前年度課題2「学内実習においても臨地実習指導者が参加し、効果的な代替実習になるよう工夫する」は終了とする。

ICTの活用については、連絡にはポータルサイトやG-Mail、課題配信にはgoogleクラスルーム、授業では録画講義配信が定着した。シミュレーターの積極的活用や事例学習への動画利用、予習におけるeラーニングの活用も、ICTを取り入れた教育方法として確立できている。また、感染症罹患による出席停止者への録画講義配信は、単位修得試験に向けた準備にも役立っている。したがって、前年度課題4「オンラインによる授業やICTを充実させる」は、課題達成できたと考える。

臨床側と学校側が参加する実習指導者協議会は、学生の学習達成状況や臨地実習の課題等を共有し協議する場として、今後も引き続き開催していく。また、臨床側においては、臨地実習の制限・中止により、技術到達度が低い新卒看護師が入職することを認識したうえで、指導や研修を工夫する必要がある。

国家試験対策については、今後も実習との連結や学生の動機付けを継続的に実施していく必要がある。第112回看護師国家試験は合格率100%を達成することができ、コロナ禍に見舞われた中であったが、様々な教育上の工夫と学生の意欲の賜物であると考える。

看護学校入学希望者に向けた効果的な広報を検討する必要があり、広告の利用や効果を検証するとともに、社会の動向から、情報発信に電子媒体を活用することを早急に検討する必要がある。

4. 今後の課題

今回の学校関係者評価を終えて、今年度の課題は以下のとおりとする。

カテゴリー	課　題
Ⅱ　教育課程経営	1. 実習協議会において、制限のある臨地実習における効果的な実習方法を協議する。
Ⅲ　教育活動・評価	2. 授業において多様な機材・教材を活用し、学生の看護実践能力を一層高める。
Ⅴ　入学	3. 受験生に向けた情報発信に電子媒体を活用する。
Ⅵ　卒業・就業・進学	4. 臨地実習と国家試験勉強が連結するようなより効果的な学習方法を考案する。
	5. 国家試験合格率を一層高める方策を練る。
	6. 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等の体制を整備する。
Ⅷ　研究	7. 将来的には教育に焦点化した研究へ取り組む。

2022年度（令和4年度）日本医科大学看護専門学校　学校関係者評価

カテゴリー	評価の考え方	教職員自己評価点	前年度までに委員から提示された課題	学校関係者評価点	学校関係者評価委員からのコメント等　及び　学校からの回答
Ⅰ 教育目標・教育理念・教育目的・教	社会の変化に対応し質の高い看護を提供する看護師を育成する看護師等養成所の責務を果たすために、法との整合性のもと、自養成所の教育上の特徴を、学生の指針となるように教育理念・教育目的・教育目標に表しているかを評価する。	3.0		2.8	C:「卒業時に獲得すべき資質」において、年度初めだけだと時間の経過とともに学生はうすれてしまうのではないか？例えば実習の前後などに提示することで、実際の看護師の仕事や、患者との関わりの中から、改めて、振り返ることができるのではないか？ →A:年間およそ12回のホームルームが学年ごとに行われ、その日のテーマ（学校行事・臨地j実習等に向けた準備や振り返りなど）に関連づけながら「卒業時に獲得すべき資質」を具体的に説明したり想起させたりしています。
Ⅱ 教育課程経営	教育課程の科目・単元が明確な考えと根拠をもって構成されているか、単位制の十分な理解の上で教育計画が立案されているか、臨地実習では自養成所の特性に適した施設であるか、実習指導者と教員の役割が明確で連携しているか、またケアを受ける患者の権利の尊重について学生を教育しているか等について評価する。	2.9	1. 実習協議会において、制限のある臨地実習における効果的な実習方法を協議する。 2. 学内実習においても、臨地実習指導者が参加し、効果的な代替実習になるよう工夫する。	2.8	C:録画講義の配信に、アーカイブ機能はありますでしょうか。もう一度確認したいところを見返したり、出席していた学生の復習にも活用できると考える。 →A:現状では、出席停止の学生を対象とした録画を原則としており、出席学生は授業に集中するように働きかけています。ただし、学年が一斉に自宅学習となるような場合には、一斉配信のうえ一定期間繰り返し視聴できるようにしています。 C:ポータルサイトの機能が更新されているのは良いと思う。平均点が並んで表示されると良いと思う。 C:少しでも臨地で、という先生方の思いが窺える。学生の教育に情熱を注いでいただきありがたい。 C:臨地実習において、webや学内実習を組み合わせて行われていたが、臨地実習指導者が参加しての学習効果がどうであったのか、その結果など、臨床側にはあまり伝わってこなかった。 協議会や実習計画もあまり変化がなく、もう少し、協議会などで検討したり、意見交換があったらよかったのではないかと思う。 →A:その日の学習成果についてはその場で共有し感謝の意を伝えていますが、実習終了時の成果は、通常の臨地実習との比較は難しいと考えます。しかし教員と学生のみで実施した場合に比べ、臨場感の違いは明らかであり、学生の態度に真剣みが一層増していると感じています。 C:学生がスムーズにPPEを着脱できていて良いと思った。オリエンテーションでのPPE演習は今後も継続していただきたい。 C:webカンファレンスを今後行う機会があれば、事例が紙面だけでなく、動画や写真など（映像）があると、学生がイメージしやすく、カンファレンスでも活発な意見交換につながると考える。 →A:ICT推進の一貫として教材のデジタル化や既存の録画教材の使用なども検討できればと思います。

カテゴリー	評価の考え方	教職員自己評価点	前年度までに委員から提示された課題	学校関係者評価点	学校関係者評価委員からのコメント等　及び　学校からの回答
Ⅱ 教育課程経営					C：地域との共同によるレクレーション等の企画立案し地域に根ざした学校自体のアピールをを望む。 →A：新型コロナ感染症の収束状況を見ながら、地域の方々との交流を含めた学校行事の再開ができればよいと考えます。
Ⅲ 教育活動・評価	授業の展開は講義、演習、実験、実習など授業内容に応じて選択され実施されているか、多様な方法で成績評価を実施し、教育目標の達成状況を把握しているか、学習への動機付けのためシラバスの提示等は効果的か、学生に関わる事故を把握し安全教育が実施されているか等について評価する。	2.9	3. 授業において多様な機材・教材を活用し、学生の看護実践能力を一層高める。 4. オンラインによる授業やICTを充実させる。	2.8	C：インシデントは、学生の中で共有されているのでしょうか？学生にもインシデントの共有と対策・再発防止の注意喚起が必要だと思う。 →A：各インシデントの傾向と対策を教員が共有し、実習オリエンテーションや実習指導に含めています。 C：学生全員が所有しているnmsメールアドレスを使用し、一定期間未回答の場合にメールが送信される、などで回答率が多少上がるのではないかと思う。 →A：自動計算・自動送信機能はありませんが、各教員が回収数を確認し学生へ回答を促しています。 C：シミュレーターを活用した学内演習や授業が行われているが、臨地実習前・実習中にも学生が活用できる環境にあるのか、活用できるようであれば、事前学習などに取り入れていただき、実習中の患者のフィジカルアセスメント、基本的な手技修得につなげられるとよいのではないかと考える。 →A：スキルトレーニングシミュレーターは、予約制で学生が主体的に練習できるようになっています。 C：シミュレーター等を活用できる環境はとてもいいと思う。そのシミュレーターで、経験したことと、臨地実習での実際の経験で、現場との共通点や、違いを振り返る機会があれば、さらなる学びにつながるのではないかと思う。 C：シミュレーターが豊富に揃っていることは、教育上の強みであるため、今後もぜひ継続して使用していただきたい。

カテゴリー	評価の考え方	教職員自己評価点	前年度までに委員から提示された課題	学校関係者評価点	学校関係者評価委員からのコメント等　及び　学校からの回答
Ⅳ 経営・管理過程	学校の管理者は、設置者の命を受け、学校経営・管理についての考え方を明示しているか、管理者の意思決定の権限や教職員の役割機能が明示されているか、教職員が財源について理解し、運用についての意見を反映できる体制になっているか、学習・教育環境が計画的に整備されているか、奨学金貸与等の経済的支援及び心身の健康維持に関わるカウンセラーの配置等学生生活への支援体制は整備されているか、学校運営への協力を求めるため保護者への情報提供が行われているか、また、学校の存在意義に関わる広報ができているか、中・長期計画に基づいて短期・年間計画が立案された上で学校運営されているか、自己点検・自己評価が実施され、結果が学校運営や授業にフィードバックされているか等について評価する。	3.0		3.0	C：建物および付帯設備の老朽化に伴い長期ではなく、短期で修繕関係の予算化を図る。 C：30年になる建物である。躯体は大丈夫だと思うが内部のライフラインの配管等の老朽化が懸念されるので、早めの予算化が必須。 →A：各種設備について、法令と経年劣化の程度を踏まえながら優先順位をつけて予算化しています。 C：緊急時には北総病院との連携が必要不可欠のため、病院内の連絡網の把握が必要と考える。 C：倫理委員会において、確認する内容は、何か基準になるような方針や規定はあるのでしょうか？ →A：入学時に個人情報保護やハラスメントの理解を促進するガイダンスを実施したうえで、投書箱の利用やその他の相談ルートについて説明している。
Ⅴ 入学	社会の変化に対応し、自養成所が期待する入学生像を明らかにしたうえで入学試験を実施しているか、自養成所の存在や特徴について受験生に十分アピールしているか、学生の入学後の状況をふまえ入学試験の方法について検証しているか等を評価する。	2.9	5．受験生に向けた情報発信に電子媒体を活用する。	3.0	C：印西市の広報についても協力依頼を検討。 →A：市の広報部門に問合せのうえ、方法を検討します。
Ⅵ 卒業・就業・進学	卒業時の看護実践能力の到達状況は把握できているか、また、卒業生の就職先での評価を把握するための情報交換や調査実施ができる体制が整えられているか、卒業生の状況を把握し統計的に整理し、授業展開等に活用できているか等を評価する。	2.9	6．臨地実習と国家試験勉強が連結するようなより効果的な学習方法を考案する。 7．国家試験合格率を一層高める方策を練る。 8．卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等の体制を整備する。	3.0	C：学年は異なりますが、卒業生として大変喜ばしいです。3年生の担任の先生をはじめ、すべての先生方のご指導あってのことと思います。 C：参加できた5クールも、見学しかできないことが多々あったのではないかと思う。事例を設定できるシミュレーターもあったように記憶しているので、シミュレーターの活用と臨地指導者との関わりで、学生には学びを深めてほしい。 C：学校と病院、卒業生が多く就職しているため、お互いの情報共有や、情報交換などが必要ではないか。新人看護師を迎える側として、学校生活において困難だったことや、引き続き支援が必要な内容を共有することで、個別の対応やサポートが行えるのではないかと思う。 →A：臨地実習の実施状況及び評価や、「卒業時の技術到達度」の集計から、実習指導者協議会において報告します。

カテゴリー	評価の考え方	教職員自己評価点	前年度までに委員から提示された課題	学校関係者評価点	学校関係者評価委員からのコメント等　及び　学校からの回答
交流 Ⅶ 地域社会／国際	地域のニーズを把握し、且つ学校から地域社会へ情報発信する手段をもっているか、また看護教育活動等を通して地域社会への貢献を行っているか、国際的視野を広げる授業科目を設定しているか、留学生の受け入れ体制があるか等を評価する。	2.7		3.0	C：地域に対しては積極的な交流を望む。 →A：中止している学校祭の地域交流などを、感染症の収束を確認しながら再開していきます。
Ⅷ 研究	社会の期待やニーズに対応しうる看護師の養成を目指し、教育の質を向上させる取り組みを実施しているか、教員の自己研鑽・相互研鑽のシステムを設けているか、研究活動を促進する制度等があるかを評価する。	2.9	9．将来的には教育に焦点化した研究へ取り組む。	3.0	